６学年　道徳学習指導案

指導者　　重森　栄理
平川　紀美

１　日　時　　平成１７年９月２８日（水）
２　学　年　　第６学年　２０名
３　主題名　　守ろう日本の宝　　３－（１）自然愛護
関連項目４－（７）郷土愛・１－（２）不撓不屈
４　資料名　　「釧路湿原」　　（プロジェクトＸより）
５　主題設定の理由

○　３－（１）「自然愛護」は，自然や動植物とのかかわりに関するものであり，自然や動植物を愛し大切にしようとする児童を育てようとする内容項目である。主に，「第１学年及び第２学年」の３－（１）が「第３学年及び第４学年」の３－（１）に発展し，「第５学年及び第６学年」の３－（１）につながっている。古来日本人は，自然との調和を図りながら暮らしてきた。自然に親しみ，自然と一体になりながら動植物を愛護し，豊かな情操を育ててきたのである。自然や動植物を愛し自然環境を大切にしようとする態度の育成は，地球全体の環境の悪化が懸念される現在，特に身に付けなければならないものである。

○　本資料は，昭和６２年に釧路湿原が国立公園に認定されるまでの２０数年におよぶ住民の努力を描いたＮＨＫプロジェクトＸを活用している。日本に２８カ所を数える国立公園。その中で唯一，地元住民から保護の要請がわき上がった「釧路湿原」。日本が世界に誇る野生生物の宝庫を守ろうと闘った人たちのドラマである。この資料の中で心打たれるのは，自らのすばらしさを体感し，自然を（命を）守ろうとする住民の姿である。特に，不毛の大地といわれた釧路湿原で懸命に生きてきた中尾さんがいる。みながこの地を去る中，自然と共存しながら一生懸命働き，生きてきた人物である。しかし，家族との生活を守るためには国立公園の設立に反対せざるを得ないのである。しかしながら，山火事の中で見たアオサギの親の愛情をきっかけに，国立公園賛成派にかわるのである。それは，これまで共存してきた自然との深いつながりと自然からの恩恵に改めて気づかされたからである。「もうこれ以上湿地に手をかけることはやめなければならない。」そう，中尾さんは述べている。私たち人間はこのような大自然の中のあらゆる命のめぐみのうえに生かされているのである，この資料は，人間は自然から生きる力をもらっているのであるということを伝えることのできる資料である。

○　本学級の児童は，本ユニットの中で，音楽の時間に「命の音づくり」をしたり，家庭学習で「生きること」「命」に関する新聞記事から意見文を書いたりする中で，「命とは何だろう。」「命を大切にするとはどうすることなのだろう。」について考えることに関心を持ってきている。また，夏休み中に水辺教室に参加した児童は，地元を流れる冠川が貴重な水生生物のすみかになっていることに気づいている。また，一学期の総合的な学習の時間の中で，本地の名所について調べたグループは，「クロガネモチの木」「大かえで」「大いちょう」などの貴重な植物の存在も気づいている。しかしながら，それらをこれからも守りつづけなければならないという意識までには到達していない。

○　指導にあたっては，釧路湿原の雄大な自然をとらえさせる，中尾さんの心情の変化をじっくりと考えさせるために，ＤＶＤを活用する。また，自分の考えをまとめる時間をとるために書く作業をとりいれる。さらに，どちらかというと友達の考えにすぐに納得してしまう児童が多いので，意図的な指名をして話し合いを深めたい。展開後半においては，地域の自然をふりかえらせるために，総合的な学習の時間を思い起こさせる。終末では，歌が好きな学級なので，学習を心に残すために釧路湿原の映像を見ながら全員で合唱したい。

6　研究主題とのかかわりと授業のポイント

命を大切にし，将来に夢を持つ子どもの育成～総合単元的な道徳学習を核として～

⇩

感動と充実感のある授業づくり

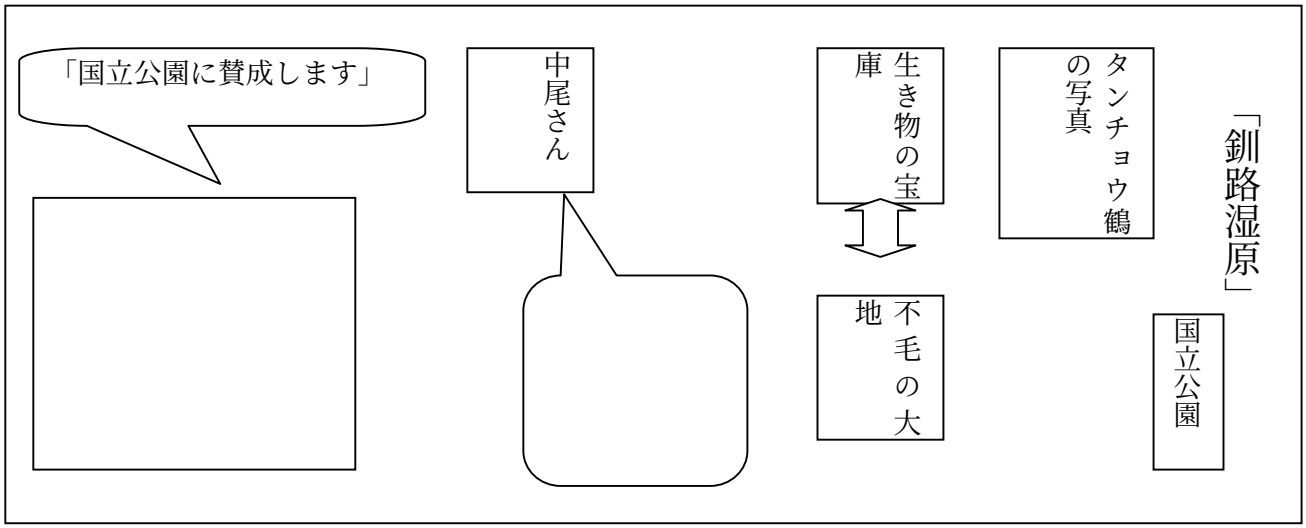
☆①自分の良さを発揮し，生き生きと思いを語る工夫・・・ＤＶＤを活用して，臨場感あふれる資料提示をする。
☆②生活を振り返り自分を見つめる工夫・・・ワークシートに書く活動を通して，自分のこれまでの生き方をじっくりと振り返らせる。

7　本時のねらい　　自然に生きづく命を守ろうとした人の生き方を通して，自然や動植物との共存のあり方を考えようとする態度を育てる。
8　準備物　　写真・ワークシート・ＤＶＤ・心のノート
9　学習指導過程

段階	学習活動	主な発問（○，◎）と 児童の心の動き	指導上の留意点（☆） 評価の観点（★）
導入 1 分	１心のノートを読みあう。	**○心のノートのＰ５８とＰ５９上段をみんなで読みましょう。今日は，自然とともに生きるということについて学習しましょう。**	☆声を合わせて読みあうことで学習の見通しを持たせる。
展開前半 ３ ０ 分	２ＤＶＤを視聴する。 ３中尾さんの心情の変化について話し合う。	**○釧路湿原を知っていますか。** **○今日登場する人はこの人です。** ・中尾さん **○中尾さんはどんな気持ちで牧草地を広げようと思ったのでしょう。** ・　もっといい生活をしたい。 ・　これまでがんばってきた，チャンスだ。 ・　これで子どもたちも人並みの生活をさせられる。 **◎中尾さんが「釧路湿原の国立公園計画に賛成します。」と言ったのはなぜでしょう。** ・　自分の生活を豊かにすることも大事だけれど，命を守ることがより大切なんだと考えたから。 ・　アオサギの親の愛情はすごいから，それに感動したから。 ・　釧路湿原にはこのように大切な命がたくさんあるのだと気づいたから。 ・　もうこれ以上大切な命を失わせてはいけないと思ったから。 ・人の命も，人間の命も，重みは同じだと気づいたから。	☆場面に分けて解説を加えながら見せることで釧路湿原の二面性を正しく把握させる。 ☆自分の生活を豊かにしたいとこれまで一生懸命に働いてきている中尾さんの気持ちに気づかせる。 ☆　自分の生活がかかっていることを思い起こさせる。 ☆「アオサギがかわいそう」という思いにとどまっている児童が変容できるように，Ｔ２がゆさぶりをかける。
展開後半 ５ 分	５身近かな自然について考える。	**○あなたが守りたい身近な自然はどこですか。その理由も言いましょう。** ・　冠川の水がきれいだとわかったのでこのままにしたい。 ・　くろがねもちの木は長生きしているので枯れないように守りたい。	☆　「水辺教室」を思い出させたり，総合で学習している「本地の名所」等を思い起こさせたりしながら，身近な自然について振り返らせる。 ★　自分の生活をふりかえっているか。

終末3分	６歌を歌う。	**〇今日の学習を思い出しながら「命あるもの」を合唱しましょう。**	☆釧路湿原の映像をスクリーンで流しながら余韻を持って終わる。

10　板書計画



１１　歌（右記）

命あるもの

一　森にこだまする　動物の声
あれは喜びか　悲しみか
山を走るもの　空を飛ぶもの
荒野を群れなし　駆けるもの
自然はいつも厳しさだけを
動物たちに　あたえるけど
ごらんよけなげに　そして自由に
命あるものは　生きている

二　白い雪の上　足跡がある
どこか遠くへと　続いてる
やがて春になり　愛を受けつぎ
小さな命が　生まれるよ
自然の中で険しい季節を
動物たちは過ごしてゆくが
ごらんよ元気に　そして自由に
命あるものは　生きている